COMPANY'S CHALLENGE
NO.85

サステナブルな米ストローで新たな社会循環に挑戦する

株式会社UPay　代表取締役　上官 ゆい氏

【プロフィール】
長崎県佐世保市出身。メーカーでの勤務を経て独立。アパレルショップや飲食店などを手掛け、現在はシステム開発事業とサステナブル事業に携わる株式会社UPayを率いる。

独自開発の米ストローでサステナブル事業に進出

SDGsへの取り組みが注目される中、福岡市中央区大名の株式会社UPayは、精米の途中で出る砕米などを活用した米ストローの製造・販売に携わっています。脱プラの一環として紙ストローの利用促進が進んでいますが、口触りや耐久性などから敬遠される側面も。一方、UPayが開発した米ストローは、口触りが良く、乾燥工程に工夫を凝らすことで耐水性をアップ。カラフルな見た目から20~30代の女性を中心に人気を集めています。

代表取締役の上官ゆいさんは「私自身、飲み物に紙の風味がつくのが苦手でしたし、何より原料の間伐材も無限ではありません。小さなお子さんだと噛んで飲み込んでしまうリスクもあり、そういった課題を解決できないかと開発したのが米ストローです」と話します。

企業に勤めていた上官さんは「受け身で人生を過ごしてしまうのは嫌だ」と、2015年に未経験からアパレルショップを立ち上げ、飲食店などにもチャレンジ。夫の故郷で出産するため中国で2年間過ごした際に、印刷業を営んでいる義実家の倉庫で見つけたのが、紙ストローの返品の山だったそうです。

「中国では日本より早く脱プラの流れがあったのですが、紙ストローは飲食店へのクレームが多く定着しませんでした。サトウキビのストローなどを検討しましたが、生分解性プラスチックという非常に厳しい条件下でないと分解されない成分が必要で、本当に環境に配慮した素材なのかと疑問が残りました。そこで2018年に欧米で販売されたパスタストローから、お米という原料に注目しました」と振り返ります。

約1年半の開発期間を経て、米とコンスターチ、水からなる米ストローが完成しました。洋菓子などに使われている着色料を使ってカラフルに仕上げられたストローには印字も可能。誤飲しても健康に問題がないというお墨付きを受け、先行して海外での販売をスタートしました。すでにパスタストローが流通する中での挑戦でしたが、小麦アレルギー対策として好評を博しました。2020年8月には、上官さんの帰国に合わせて日本国内でも販売を開

1 UPayの米ストローは、そのカラフルさも大きな特徴のひとつ。ノベルティとして色を組み合わせたセットなどを販売している

2 UPayには中国人エンジニアが所属し、独自の決済システムを開発。QRコードを読み取ることで注文から決済までをひとつのシステムで対応できる

3 米ストローは米とコンスターチ、水を攪拌して練り上げ、管状に成形、裁断し乾燥させて完成。中国では特許を取得済み

4 ドリンクの色とも合わせられるのでカフェなどでも人気。耐水性が高いため、クラッシュアイスを使ったカクテルやスムージーとも相性が良いという

始。現在では各種ECサイトで販売しているほか、企業のノベルティや飲食店などで活用されています。また今後は、福岡市内の雑貨店などでも販売予定。

もともと「地球の環境問題を解決したいという使命感はなかった」という上官さん。サステナブル事業に関心を持ち始めた大きなきっかけは出産だったそう。「ひとりだった時は自分の人生だけを考えれば良かったのですが、子どもが生まれてからはさらに未来を見据えた上で物事を考えるようになりました。事業を始めてからは、日本のSDGsの取り組みの遅さや、環境問題などについて知る機会が非常に多くなり、皆さんの意識が変わるきっかけをつくれたらと思うようになりました」と上官さん。

暮らしをより豊かに
決済サービスも展開

サステナブル事業のほかにも、システム開発事業に取り組むUPay。二次元バーコードによる決済システムを開発し、福岡市や北九州市の飲食店などに導入しています。その大きな特徴は、日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語に対応している点。この事業についても中国で過ごした経験が生きていると言います。

「中国はすでに現金を持たないキャッシュレス社会。飲食店にメニュー表はありませんし、二次元バーコードを読み込んで注文から決済までを行います。店員との接触も最小限に抑えられるので、日本でももう少しキャッシュレスが身近になって良いはずです。独立して以来、私の仕事のモットーは“人の暮らしをより豊かに”すること。アパレルショップや飲食店、サステナブル事業もそうですが、決済サービスも、皆さんの暮らしが少しでも楽しく、便利で豊かなものになれば嬉しいです」と話します。

地産地消のロールモデルで
社会循環の輪を広げる

今秋には、福岡市東区箱崎に米ストローの日本工場を竣工。中国工場も拡張し、月間2,200万本の生産体制となるUPay。日本工場では小ロットでの発注も受け付けており、地域ごとに余っている米などを活用したご当地ストローの製作も可能だといいます。加えて新商品の開発も進んでおり、米を使った伸縮性ストローやスプーンの試作を重ねています。

「オリジナルパッケージにストローを入れるなどの納品作業については、一般社団法人福岡障がい者就労支援協会のサポートを受け、障がい者の方にお願いしています。障がい者施設との連携によって、脱プラや米農家への貢献と同時に、社会福祉の面でも貢献できます。将来的には、全ての方が社会に参画する社会循環を築き、地産地消の新たなロールモデルづくりにチャレンジしていきたい」と上官さんは意気込みます。

取材日：9月5日

株式会社UPay

〒810-0041 福岡市中央区大名2-2-1 MIKIビル7F
TEL：092-724-3128
https://www.upay.co.jp/